



リオン株式会社

2022年3月期 第2四半期決算

2021年11月18日
証券コード <6823>

1. 2022年3月期 第2四半期決算概要

取締役 経営企画本部長 加藤 公規

はじめに – 3事業セグメントと4製品群

事業セグメント	製品群	特徴
A. 医療機器事業	① 補聴器	<ul style="list-style-type: none">国内トップシェアリオネット補聴器
	② 医用検査機器	<ul style="list-style-type: none">耳鼻咽喉科領域オーディオメータ
B. 環境機器事業	③ 音響・振動計測器	<ul style="list-style-type: none">騒音公害対策が起源騒音計・振動計・地震計
C. 微粒子計測器事業	④ 微粒子計測器	<ul style="list-style-type: none">半導体製造関連向け浄水・医薬品向け

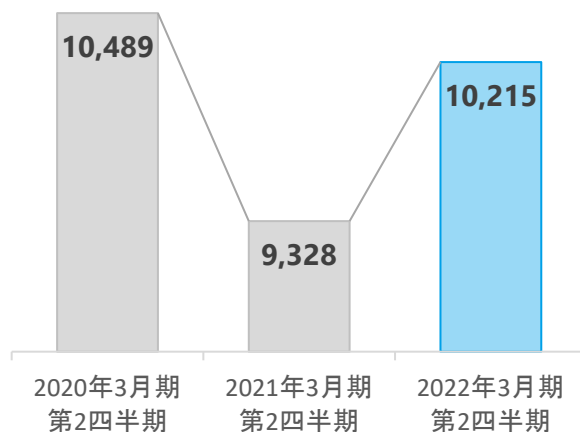
連結業績－決算ハイライト

コロナからの回復により、増収増益を達成

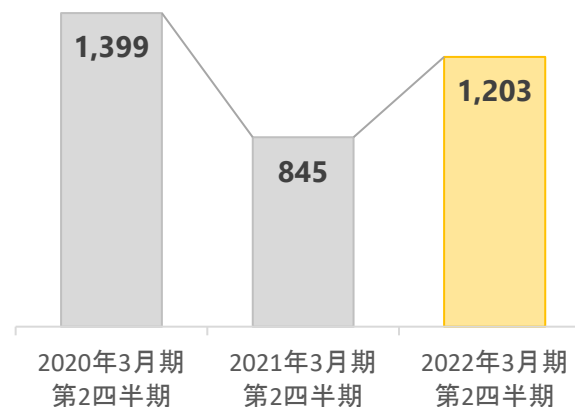
補聴器は復調の兆し、微粒子計測器は高い需要が継続

通期予想は変更なし

売上高 [百万円]



営業利益 [百万円]



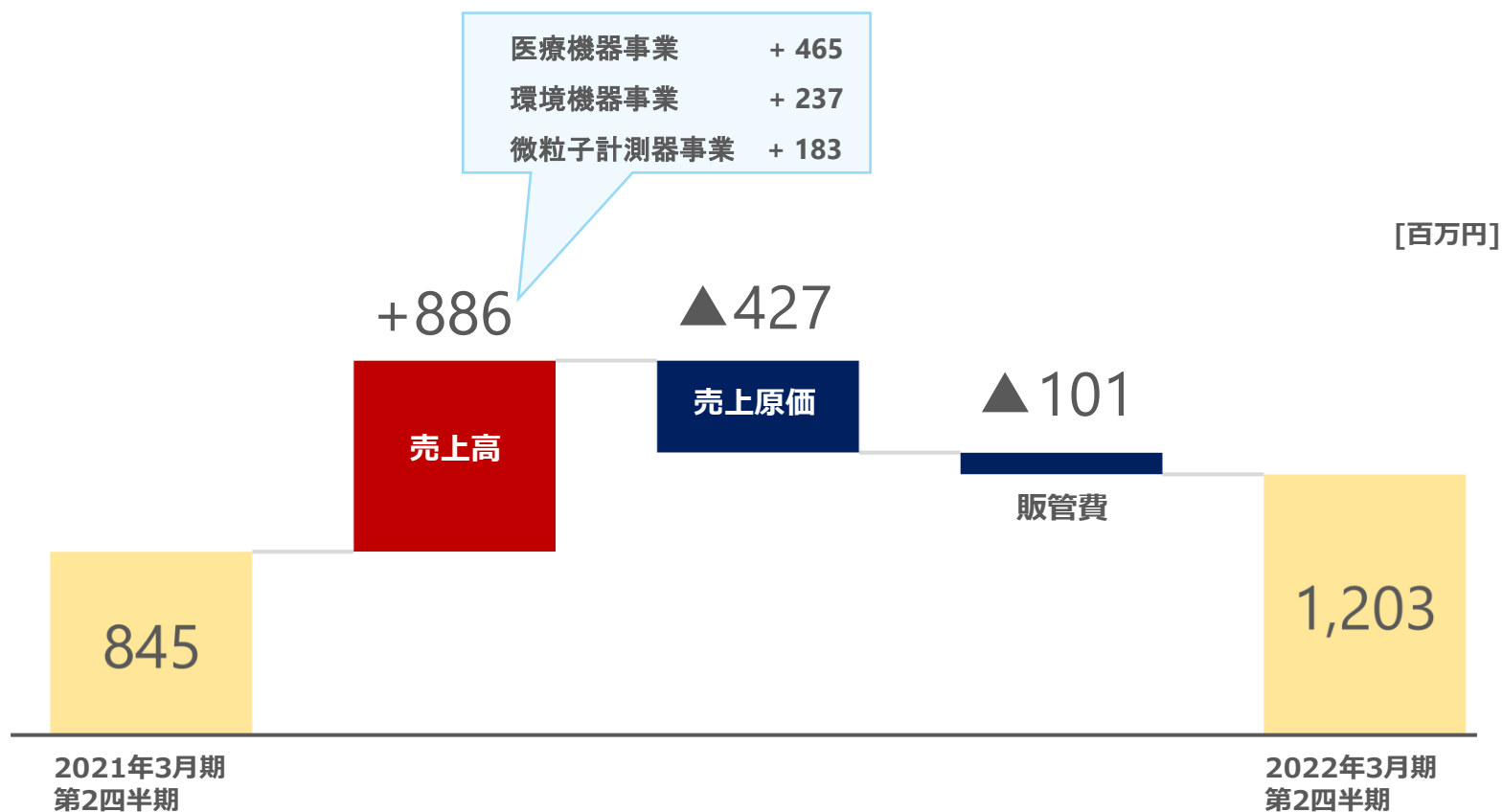
期初予想との比較

- 売上高・利益ともに期初予想を達成。
- 経費削減の効果が継続し、利益は期初予想を大きく上回る形で着地。

	2022年3月期 第2四半期		[百万円]
	実績	期初予想	達成率
売上高	10,215	10,100	101.1%
営業利益	1,203	950	126.7%
経常利益	1,235	1,000	123.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	843	750	112.4%
1株当たり四半期純利益	68円60銭	61円04銭	—
営業利益率	11.8%	9.4%	—

営業利益の推移

- コロナからの回復に伴い、全事業において増収達成。
- 経費削減を継続し、販管費の増加を抑制した。



事業セグメント別－①医療機器事業

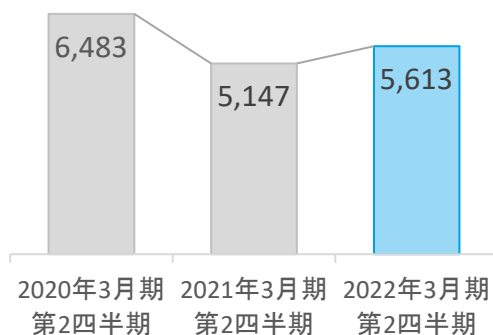


[増収増益]

- 補聴器－ 緊急事態宣言の影響を受け来客数が伸び悩んだが、前年同期ほどの落ち込みには至らなかった。
- 医用検査機器－ 前年同期に比べ販売は堅調に推移。医療機関へのオージオメータ等の販売に回復の兆し。

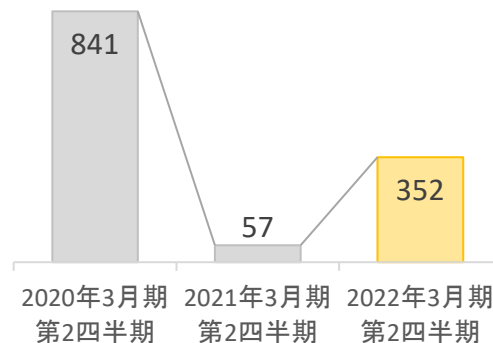
売上高 [百万円]

↑ 465
(前年同期比)



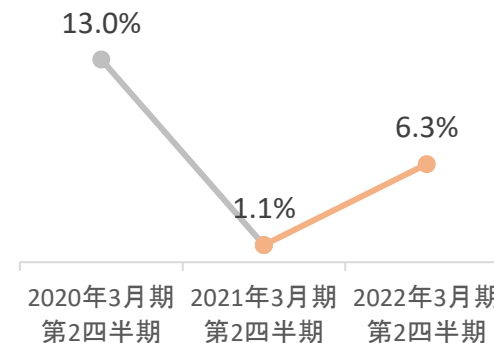
営業利益 [百万円]

↑ 295
(前年同期比)



営業利益率 [%]

↑ 5.2pt
(前年同期比)



事業セグメント別 – ②環境機器事業

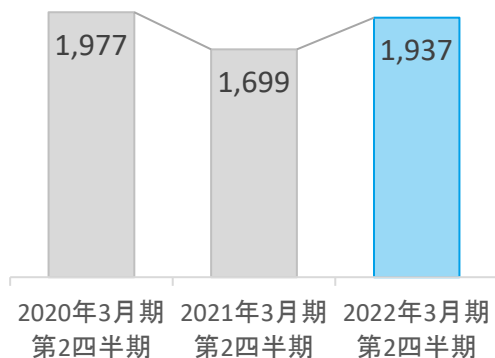


[増収増益]

- 民間企業で設備投資が回復傾向にあるほか、官公庁などの予算案件が安定的な販売につながった。
- 都市部における建設工事の活況が継続。騒音振動表示装置への需要が高く、各種計測器の販売が堅調。

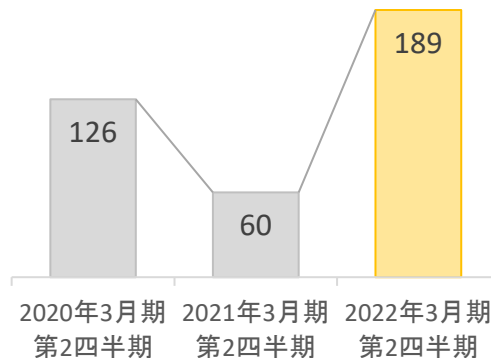
売上高 [百万円]

↑ 237
(前年同期比)



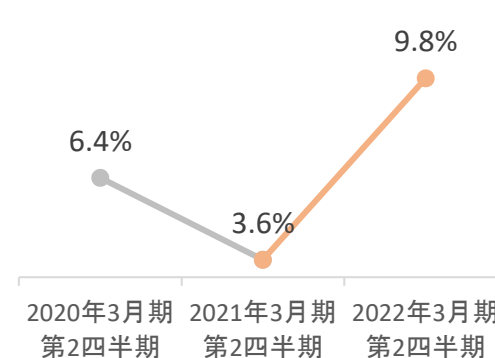
営業利益 [百万円]

↑ 129
(前年同期比)



営業利益率 [%]

↑ 6.2pt
(前年同期比)



事業セグメント別 – ③ 微粒子計測器事業

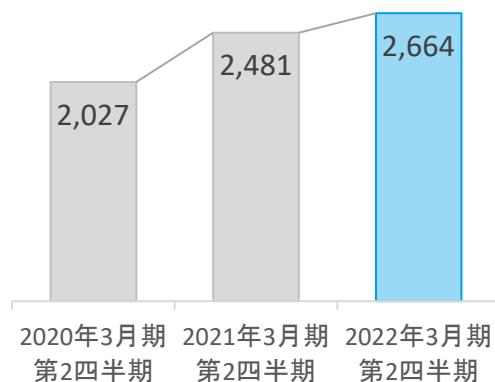


[増収減益]

- 市場では深刻な半導体不足が続き、活発な設備投資が長期にわたって継続。過去最高の売上高を更新。
- 期間費用の増加に伴い売上原価率が上昇したこと等により、営業利益は前年同期に及ばなかった。

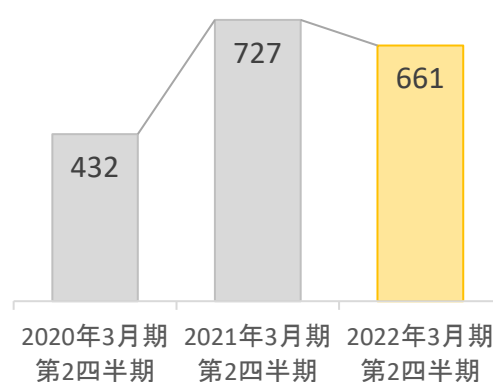
売上高 [百万円]

↑ 183
(前年同期比)



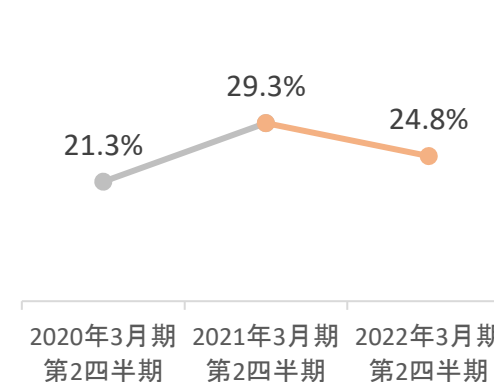
営業利益 [百万円]

↓ 66
(前年同期比)



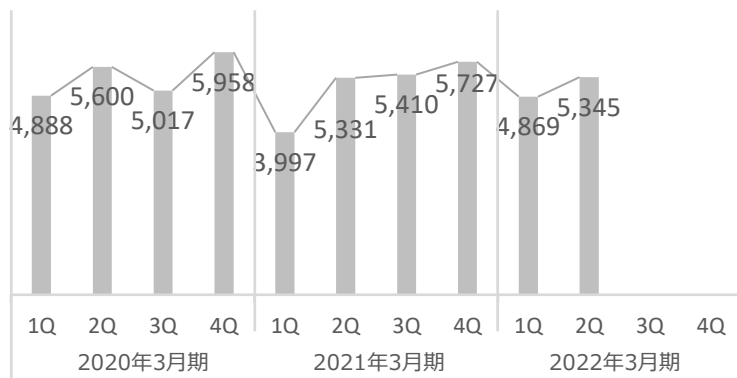
営業利益率 [%]

↓ 4.5pt
(前年同期比)

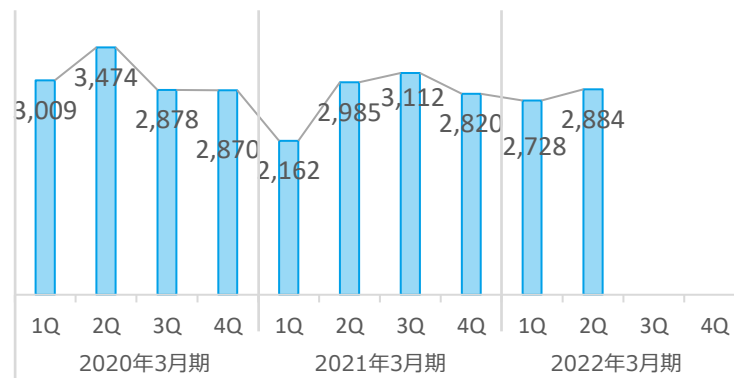


売上高 四半期の推移 (事業セグメント別)

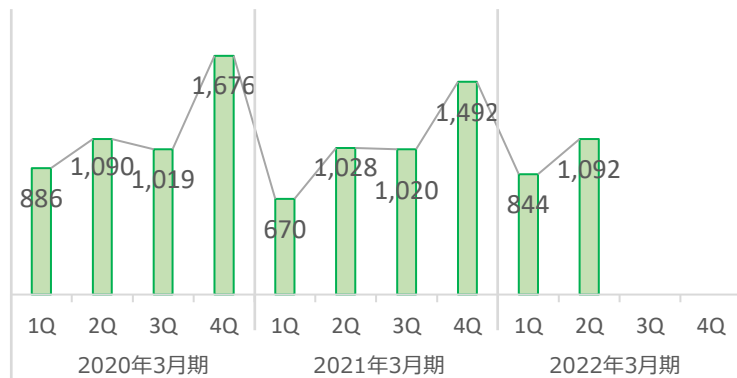
全体：売上高 [百万円]



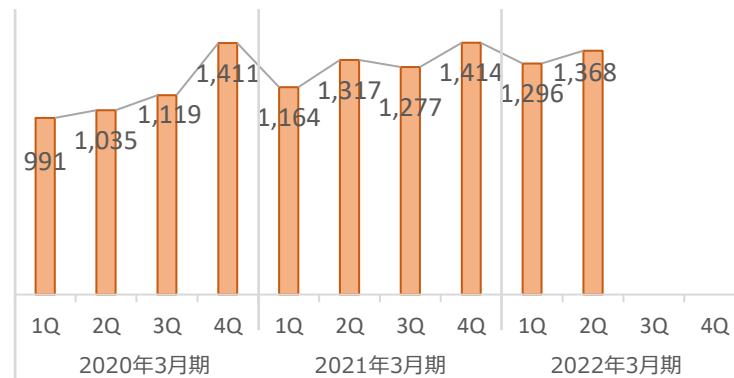
医療機器事業：売上高 [百万円]



環境機器事業：売上高 [百万円]

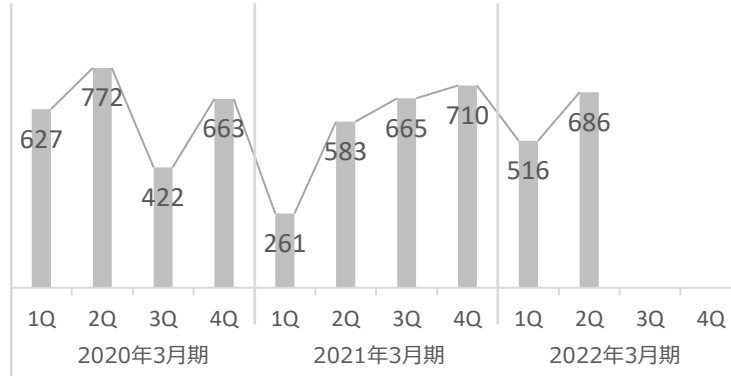


微粒子計測器事業：売上高 [百万円]

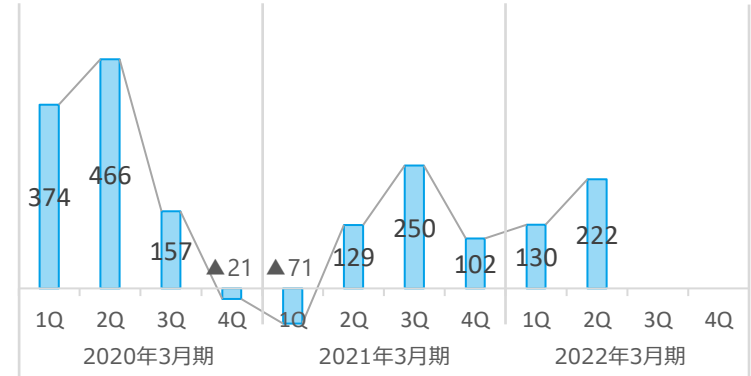


営業利益 四半期の推移 (事業セグメント別)

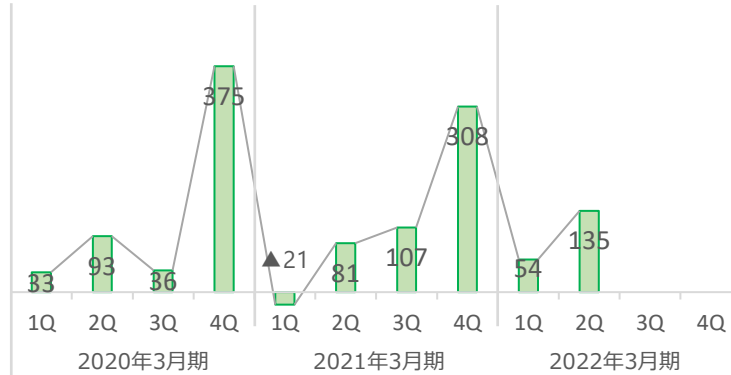
全体：営業利益 [百万円]



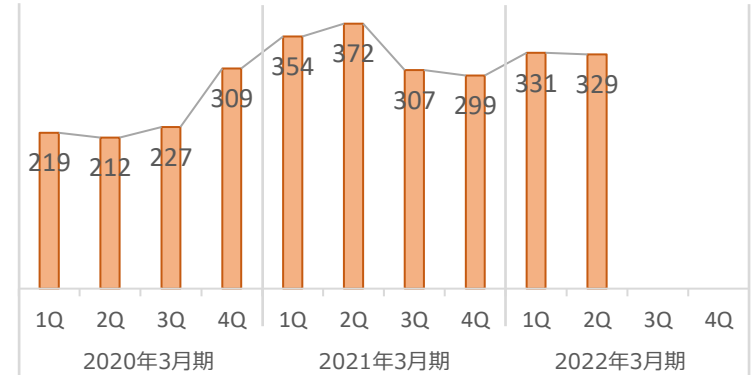
医療機器事業：営業利益 [百万円]



環境機器事業：営業利益 [百万円]



微粒子計測器事業：営業利益 [百万円]



連結貸借対照表 (B/S)

[百万円]

	2021年3月期	2022年3月期 第2四半期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
流動資産	18,126	18,524	397	2.2%
現金及び預金	6,441	7,446	1,004	15.6%
たな卸資産	5,200	5,386	186	3.6%
その他	6,484	5,690	▲793	▲12.2%
固定資産	12,557	12,589	32	0.3%
有形固定資産	9,546	9,505	▲41	▲0.4%
無形固定資産	697	796	99	14.3%
投資その他の資産	2,313	2,287	▲25	▲1.1%
資産合計	30,683	31,113	429	1.4%
流動負債	3,824	3,617	▲206	▲5.4%
固定負債	3,133	3,352	219	7.0%
負債合計	6,957	6,970	12	0.2%
純資産合計	23,726	24,143	417	1.8%
負債及び純資産合計	30,683	31,113	429	1.4%

連結損益計算書 (P/L)

[百万円]

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	9,328	10,215	886	9.5%
売上原価	4,587	5,014	446	23.2%
売上総利益	4,740	5,200	459	9.7%
販売費及び一般管理費	3,895	3,996	101	2.6%
営業利益	845	1,203	357	42.3%
営業外収益	64	55	▲8	▲13.6%
営業外費用	33	24	▲9	▲28.2%
経常利益	876	1,235	358	40.9%
特別利益	190	—	▲190	▲100.0%
特別損失	3	4	1	38.6%
税金等調整前四半期純利益	1,063	1,230	166	15.7%
法人税等	342	387	44	13.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	721	843	121	16.9%

連結キャッシュ・フロー計算書 (C/F)







[百万円]

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	前期比
	実績	実績	増減額
営業活動によるCF	946	1,688	741
税金等調整前四半期純利益	1,063	1,230	166
減価償却費	368	319	▲48
法人税等の支払額	▲385	▲337	48
その他	▲100	475	575
投資活動によるCF	▲529	▲421	108
有形固定資産の取得による支出	▲375	▲201	174
無形固定資産の取得による支出	▲147	▲247	▲99
その他	▲6	27	33
財務活動によるCF	▲289	▲264	24
配当金の支払額	▲282	▲258	24
その他	▲6	▲6	0
現金及び現金同等物の期末残高	5,591	6,828	1,236

2. 今後の事業環境と業績見通し

代表取締役社長 清水 健一




事業環境 – 医療機器事業 (補聴器・医用検査機器)

医療機器事業	上期実績	下期 (予想)
 <p>補聴器</p>  <p>医用検査機器</p>	 <p>売上高 5,613百万円</p> <p>営業利益 352百万円</p> <p>(補聴器+医用検査機器)</p> 	 

2022年3月期の概要

補聴器	<ul style="list-style-type: none"> 感染の鎮静化に伴い、上期までは低調であった高齢者の販売店への来客機会が、下期においては増加に転じるものと見込まれる。 上期ではコロナ前の水準を大きく割り込んだが、下期においてはコロナ前の水準を超えるため、通期ではコロナ前の水準を若干下回る程度にまで回復する。
医用検査機器	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の活動も平常に戻り、今後は医療機器の買替需要も見込まれることから、下期においてはコロナ前の水準を上回る売上高を見込む。しかしながら、通期では、前年同期を上回るものの、コロナ前の水準までには戻らない。


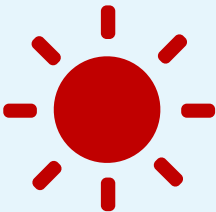
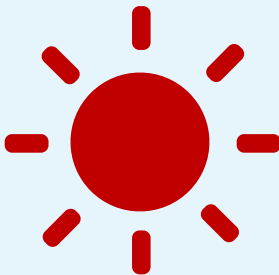
事業環境 – 環境機器事業

音響・振動計測器 (環境機器事業)	上期実績	下期 (予想)
	 <p>売上高 1,937百万円</p> <p>営業利益 189百万円</p>	

2022年3月期の概要

- 自動車・建設等の産業分野の市況は緩やかに回復しつつあり、前年対比では増収ながら、コロナ前の水準には届かないものと見込まれる。
一方で環境分野での受注は順調である。
- 販売費の減少により、通期で前々年の営業利益を上回るものと見込んでいる。

事業環境 – 微粒子計測器事業

微粒子計測器 (微粒子計測器事業)	上期実績	下期 (予想)
	 <p>売上高 2,664百万円</p> <p>営業利益 661百万円</p>	

2022年3月期の概要

- 半導体不足の解消に向けた生産設備の増強需要は、今後も継続すると見込む。
- 上記環境から、当社が得意とする微細化に伴う最先端製品だけでなく、汎用的な製品のニーズも高く、幅広い製品需要に生産が追い付かない状況である。
- 医薬関連市場や、生物粒子計数器による新市場に新たな可能性を探る。

連結業績の通期見通し

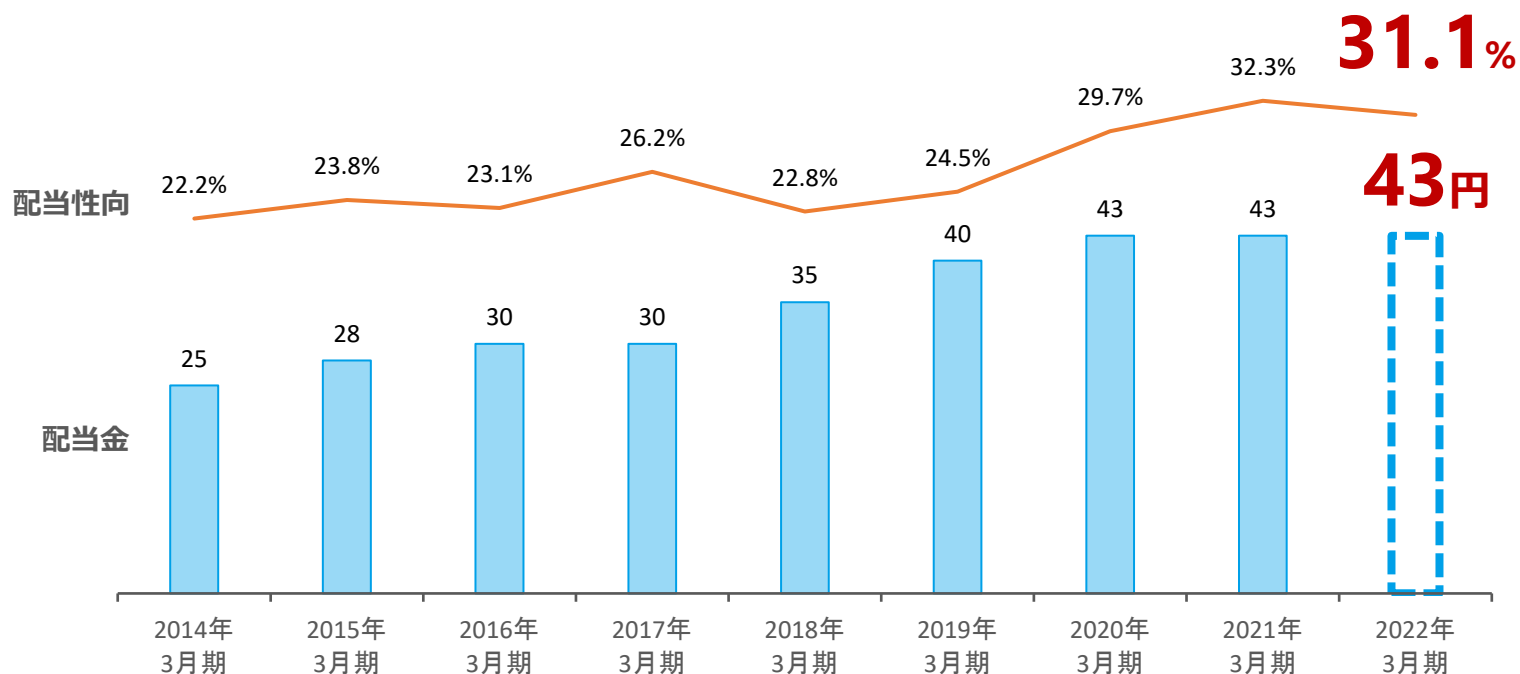
- ・ コロナ収束に伴い、下期の売上高はコロナ前を超え、
通期では過去最高を更新する見込み

[百万円]

	2021年3月期	2022年3月期（予想）	当期比	
			増減額	増減率
売上高	20,466	22,000	1,533	107.5%
営業利益	2,220	2,500	279	112.6%
経常利益	2,297	2,550	252	111.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,636	1,700	63	103.8%
1株当たり 当期純利益	133円27銭	138円32銭	—	—
営業利益率	10.9%	11.4%	—	—

配当金と配当性向

- ・ 業績に応じた配当金額の設定
- ・ 配当水準向上の取り組みを継続





リオンは すべての行動を通して
人へ 社会へ 世界へ 貢献する

Contributing to people, society and the world through all our activities

免責事項 | 本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。